令和5年度 学校評価アンケート(前期) 結果

光市立上島田小学校

※ 評価点は4点満点、数値は上段が今回で下段が前年度後期。 <u>太字</u>は前回より0.1pt以上アップ、網目は0.1pt以上ダウンした項目

	学校評価項目		児 童 R5:70	保護者 R5:72	地 域 R5:10	教職員 R5:10	総合評価		考察及び課題解決に向けて
1		教員の授業力, 学力向上を目指	3.71	3.67	3.67	3.20	R 5 前期	3. 26	・タブレットを用いて児童の授業評価を活用しながら、今後も授業改善に努めていく。 ・ます、宿憩をすることで家庭での学習習慣をつける。そして、やり方を示して全学年で自主学習に取り組み、見本となる自主学習ノートを紹介を出通の取組であるトーラでを出していく。・「早寝・早起き・観点」に取り組み、家族・早起き・時間に併せて「家庭読書」に取り組み、家族と一緒に読書をするとして、全校で取り組む中に「家庭読書」を入れて、全校で取り組む日を設定する。また、令和4年度の後期に学校評価の本の冊数の目標を30冊以上に見直したので、本年度の後期の学校評価で修正する。
'		した授業改善に関する評価	3.75	3.72	3.71	3.38			
2	学	家庭学習の定着に関する評価	3.36	3.10	-	3.20			
2	カの		3.38	3.28	-	3.63			
3	向	ICTを活用した学習に関する評価	3.86	3.31	-	3.20	R 4 後期	3. 36	
3	上		3.62	3.41	-	3.25			
4	ļ	読書活動に関する評価 (下学年50冊、上学年40冊以 上)	2.91	2.24	-	3.20			
4			3.04	2.47	-	3.33			
5		体験活動を通した心の教育の 推進に関する評価(ふれあい・ 縦割り・清掃等)	3.46	3.08	4.00	3.40	R5前期	3. 48	・「だまって時間いっぱいそうじをしている」の項目に関しては、掃除と関係ない話をしている児童はほぼいないが、掃除に関係する話をしている児童はいて、結果的にだままってそうじをすることができていない状況にあると考える。黙働できるように、指導を徹底して習慣づけていく必要がある。・「あいさつや言葉づかい、姿勢に気をつけて生活している」の項目に関して「名前を呼んでからあいさつをする」などあいさつブラスワンの取組を児童会が中心となって進めていく。
3	心の		3.62	3.02	4.00	3.38			
6	教育の	正しい姿勢で学習、気持ちのよ い挨拶やふさわしい言葉遣いに 関する評価	3.28	3.31	3.30	3.60			
0			3.55	3.40	3.14	3.63	R 4後期	3. 49	
7	重 視	学校生活を楽しく送ることに関する評価	3.76	3.50	-	-			
,			3.56	3.43	-	-			
8		「早寝」・「早起き」・「朝ごはん」 運動に関する評価	3.29	3.17	_	3.50	R 5 前期	3. 38	・生活リズムについては、長期休業明けに 「早寝・早起き・朝ごはんパスポート」に取 り組んだり、身体測定の際に生活習慣につい ての保健指導を行ったりすることにより、生 活習慣改学校区で統一した保健指導を行い、 児童の健康上の課題を把握し、具体的な指導 につなげていく。 ・危険予測能力については、今後もKYT学習 を活用した指導に努めるとともに、学んだの 学習等で経験の中から学ぶ機会を設けたい。 ・スクールカウンセラーによる児童や保護者 への教育相談の機会を設け、気軽に利用でき るよう周知していく。また「一のコントロー の教育相談の機会を設け、気軽に利用でき るよう周知していく。また「シアョする機 会を全学年でもつ。週1回の生活アンケート をもとに、必要に応じて適宜教育相談の機会 を設ける。
ŏ	, _		3.33	3.38	-	3.25			
9	体力	外遊びの奨励と多様な運動経 験に関する評価	3.64	3.42	3.30	3.30			
9	· 安		3.47	3.31	3.71	3.25			
10	充 - 実	危険予測能力を身につけた安 全な行動に関する評価	3.81	3.19	3.10	3.50	R 4 前期	3. 36	
10			3.70	3.26	3.29	3.50			
		児童理解の深化と適切な対応 に関する評価	3.63	2.99	3.10	3.40			
11			3.80	3.16	2.71	3.63			
12	連	CSに関する評価	3.30	2.86	3.50	3.50	R5前期	3. 32	・CSの方々に関わっていただいた回数が少ない学年もあったが、今後も計画に沿って実施していく。CSだよりについては、2ヶ月に1回ぐらい発行して、発行部数を増やしていく。・島田川協育ネット関係の取組により小中との連携に関する評価が上がったと考えられる。島田中学校区小中一貫教育の活動に積極的に取り組んでいく。また、来年度は運動会等で幼保との連携を図っていきたい。 ・6月は勤務日数の関係もあり、勤務時間の超過が多かった。教職員間で声を掛け合って超過時間を少なくしていきたい。また、来年度から導入される校務支援システムの準備について、研修講座の復伝を行うなどして進めていく。・11月に開催される人権教育研究発表会に向けて授業研究を中心とした研修を全教員で進めている。
12	携		3.51	2.97	3.86	3.38			
10		幼保・小・中との交流や連携に 関する評価	3.70	-	_	3.00	R4後期	3. 41	
13			3.63	_	_	2.75			
1.4	務改善	業務の効率化と健康の保持に 関する評価	-	_	_	3.20	R 5 前期	3. 25	
14			_	-	_	3.25			
15		資質・能力の向上と学校運営や 教育活動の改善に関する評価	-	_	_	3.30	R4後期		
15			ı	_	_	3.38			

前期の総括

全体的に令和4年度後期の評価に比べて低くなっている項目が多く見られた。学力の向上に関しては、中学校区で取り組んでいる家庭学習の充実に関する取組を進めることや読書の習慣をつけるための取組を進めていく必要がある。体力・安全の充実に関しては、児童や保護者が気軽に教育相談を行えるようにSC(スクールカウンセラー)の活用も含めて機会を設けていきたい。連携・協働に関しては、学校便りやCS便り、PTAの会合等で積極的に情報発信を行うとともに、行事の際にCS応援団の方々をご紹介するなど、取り組んでいることを周知していきたい。